

令和6年2月 月例句会 会報・HP掲載句

兼題 海苔、下萌、当季雑詠

(投句順)

海苔届き故郷の海の色浮かぶ 城戸崎雅崇

海苔粗朶にうねり静かに日をのせて 石原 克己

海苔掬ふ真白き富士の富津沖 中山 知祐

塹壕で眠る兵士に草萌ゆる 大仲 正敏

寝そべつて牛の反芻下萌ゆる 佐藤 政百

荒ぶ能登地震の痕にも下萌える 森 邦彦

山道に差し入る朝日下萌る 新谷 亮介

沢の字の残る公園春を待つ 安井 正浩

咲き誇るさざんか眺めバスを待つ 川田 勝美

待ってろよわが手求める妻がいる 眞田 宗興

以上